親愛なるお父様へ

銀　響

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
親愛なるお父様へ

【Ｎコード】
Ｎ８５２３Ｐ

【作者名】
銀　響

【あらすじ】
一国の王様と、王女様の家族愛の話です。
小説とは言えない感じです。

この国には王妃を亡くした王と、
王に愛されている王女様がいました。

「娘や娘」
「はい、お父様」
「足りないものはないかい？」
「ありませんわ」
「それはよかった」
翌日……
「娘や娘」
「はい、お父様」
「足りないものはないかい？」
「ありませんわ」
「それはよかった」

また翌日……

「娘や娘」

「はい、お父様」

「足りないものはないかい？」

王女様は思いました。

いい加減うぜぇ。

また翌日……

「娘や娘」

「はい、お父様」

「食べたいものはないかい？」

「ありませんわ」

「それはよかった」

また翌日……

「娘や娘」

「はい、お父様」

「ほしいものはないかい？」
「今あるもので十分ですわ」
「それはよかった」
また翌日……
「娘や娘」
「はい、お父様」
「この人と結婚しなさい」
「はい、お父様」
また翌日……
「娘や娘」
「はい、お父様」
「結婚式はこれでいいかい？」
「とてもうれしいですわ」
また翌日……
「娘や娘」

「はい、お父様」

「少し旅に出てくるよ」

「はい、お父様」

数日後……

「王女様王女様」

「何事ですか？」

「王様がお亡くなりになられました」

ほしいものがないかとか、足りないものがないかとか、すべて私のためでした。

結婚をさせたのも、相手がとても優しく責任感がある人だからでした。

旅にでると言ったのは、私を心配させないためでした。

お父様、うっとしいほど私を愛してくれたお父様。

ありがとう

愛しています

（後書き）

いきなり書きたくなったものなので特に深い意味はありません。
なにが書きたかったのやら。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8523p/

親愛なるお父様へ

2011年1月8日23時02分発行